
QA37 子どもの甲状腺がんのリスクはどれくらいですか

子どもの最も注意すべき甲状腺がんのリスクは、1,000 人の子どもが甲状腺に 100 ミリシーベルト被ばくしたとき、1,000 人中 2 人が発症する程度と試算できます。ただし小児の甲状腺がんは治療でき、平均余命まで生存できます。

なお、日本ではもともと、一年間に 10 万人当たり約 7 人が甲状腺がんにかかるとされています(国立がん研究センターがん情報サービス「各種がん 117 甲状腺がん」より)。

「1,000 人に 2 人」の根拠は、UNSCEAR2006 年報告書記載の、被曝時年齢が 0~19 歳の甲状腺がん罹患の過剰絶対リスク 3.07 (/1 万人・年・Sv) に、平均余命 70 年と 0.1Sv を掛けると、1,000 人に約 2 人となります。また、同じく過剰相対リスク (3.93/シーベルト) に、日本人の甲状腺がん罹患生涯リスク (1,000 人に 6 人) および 0.1 シーベルトを掛けると、やはり 1,000 人に約 2 人となります。

なお、長野県において福島県から避難している子どもの甲状腺検査に変化がみられたとする報道に関しましては、日本小児内分泌学会が「検討の結果、今回の検診で得られた『検査値の基準範囲からの逸脱』はいずれも僅かな程度であり、一般的な小児の検査値でもときにみられる範囲のものと判断しました。なお、これらの検査結果を放射線被ばくと結びつけて考慮すべき積極的な理由はないものと考えます」との声明を出しています。

出典：放射線医学総合研究所ウェブサイト「放射線被ばくに関する Q&A」より作成

出典の公開日：2012 年 4 月 13 日

本資料への収録日：2012 年 12 月 25 日